

「英知を集結して未来を勝ち取る」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
会長 忍田 勉

第36回通常総会を経て、新任の理事、委員を含む新体制で当連合会も新たな出発をしております。6月から7月にかけて、新執行部の第1回目の会議開催後、5つの委員会に出席し、私の思いをお伝えさせていただきました。それぞれが全国の会員企業への役立ちを高めるために、フレッシュな視点で、情報収集、議論、検討、実施を励行いただくこと、楽しみにしております。

シンガポールで開催された6月12日の米朝首脳会談を終え、一時的に戦争のリスクはおさまっておりますが、米中貿易摩擦という新たな火種も発生し、国際情勢の緊張は続いております。一方で、国内経済は日々、第4次産業革命へ着々と進んでおり、消費税増税、少子高齢化、人手不足、住宅着工数減少など先行きが混沌とする中、組合としても進む先に何があるのかを示すのは容易ではありません。

しかしながらエネルギーとしての電気は、自動車までも電気になるように、この先大きく広がっていくことは、大方の人が予想できることでしょうか。その証左として、異業種が触手をもって積極的に電気分野に進出してきております。取扱い商品の豊富な電気の業界は相当魅力的に見えるのでしょうか。

今や私共の業界は戦国時代に入っているのだと考えます。しかも国盗り合戦といった自分たちの地域を守るのではなく、業界間の争いです。業界対業界の戦国時代に入っているわけです。大手の電気工事会社さんやデベロッパーが電材卸会社を作り、メーカーの直売も進んでいます。我々の進むべき方向の1つは、従来の商流の強みを最大限に生かして、主導権を握る事です。昨年より「パワーセイビング」の発展形として「スマート・パワー・ネットワーク」を工製販でスタートしました。三者が

売っている側、買っている側という立場を超え、互いにパートナーであるという考え方で、互いの役立ちについて謙虚に譲り合い、高めることをしないと結末はありえません。電気が安全な社会の発展を促すためにも、三者の経験、知恵を集結する場面として、このスマートパワー運動を促したいと思います。

進むべき方向のもう一つは、10年後、20年後へ向けた、業容拡大の準備をすることです。業界の垣根を越えた商売が必要となってきました。インターネットを含めた多様性が商売としても必要になっております。無線、弱電分野へも積極的に関与していき、どのような環境になっても生き残れる体制の構築が必要です。理事の皆様、委員の皆様とのオープンな対話をめざし、本音をぶつけ合い、英知を集結して業界の未来を勝ち取りたく思います。